

令和 5 年 7 月 14 日
国土交通省住宅局

令和 5 年度空き家対策モデル事業の応募状況
及び評価委員会による評価の概要

1. 応募概要

- ・ 応募期間：令和 5 年 4 月 27 日～同年 6 月 2 日
- ・ 応募総数：150 件、採択総数：110 件
- ・ 令和 4 年度「住宅市場を活用した空き家対策モデル事業」において採択された団体からの応募は 55 件、うち採択された提案は 48 件あった。

(1) テーマ別・提案区分別の応募・採択数

(単位：件)

	ソフト提案部門				ハード 提案部門	合計	
	ソフト型		ソフト・ハード 一体型				
	応募	採択	応募	採択	応募・採択	応募	採択
テーマ 1	48	38	7	6	0	55	44
テーマ 2	33	24	16	7		49	31
テーマ 3	28	21	18	14		46	35
合計	109	83	41	27	0	150	110

※テーマ 1：空き家に関する相談対応の充実や空き家の発生抑制に資する官民連携体制の構築等

テーマ 2：空き家の活用等に資するスタートアップなど新たなビジネスモデルの構築等

テーマ 3：新たなライフスタイルや居住ニーズに対応した空き家の活用等

(2) 事業地域別の応募・採択数

(単位：件)

	北海道	東北	関東	北陸	中部	近畿	中国	四国	九州・ 沖縄	全国・ 複数 地域
応募	1	11	32	8	14	25	9	6	17	27
採択	1	8	24	6	11	22	6	5	10	17

2. 評価委員会による評価の概要

(1) テーマ 1

相談窓口等の空き家対策の執行体制整備が必要な地域において、多様な主体による連携体制構築、相談・普及啓発等の取組実施に係る提案を求めるものである。

(概要)

- ・ 継続的に空き家対策に取り組んできた事業主体が、発展的な取組として多様な主体と連携することで発生抑制に繋げる提案や、新たに法整備された空家等管理活用支援法人の指定を目指す提案等、着実な活動の積み重ねのあるもの、具体性が高いもの、創意工夫に富んだものが高く評価された。
- ・ 一方、新規性に欠け、その後の展開・発展性が見込まれないと判断された提案は、評価が低くならざるを得なかった。

(2) テーマ 2

異業種間の連携やデジタル技術の活用等により、空き家の調査・活用・除却の推進に資する新たなビジネスモデルのスタートアップに係る取組の提案を求めるものである。

(概要)

- ・ 既存の空き家対策における課題を的確に捉え、デジタル技術の活用により解決を図る提案や、ファイナンス・収益性の視点に対する工夫が行き届いた新たなビジネスモデル構築に係る提案が高く評価されている。また、これらの提案では具体性が高く、今後の波及性・全国的な横展開が望まれるものが多くみられた。
- ・ 一方で、取組内容の具体性・実現可能性に欠ける提案や、新規性の低い提案は評価が低い傾向となった。

(3) テーマ 3

移住、二地域居住等の新たなライフスタイルや居住ニーズ等に対応した多様な用途への活用・流通促進に資する取組の提案を求めるものである。

(概要)

- ・ 移住を促すために様々な創意工夫が図られた提案や、新たなニーズに対応するための利活用手法の構築に係る提案が多く、特に具体性・実現可能性が高い取組については高く評価される傾向にあった。
- ・ 一方、事業の趣旨と異なる提案や、新規性・波及性の低い提案も散見され、これらの提案は低い評価とならざるを得なかった。